

七月のテーマ 活路はどこに

中小企業の突破口

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二二—一九九九）のこぼれを掲載します。



え・古屋智子

全

一般的な金づまり、求人難と、中小企業主にとっては困った問題が続出しています。

こうした時、どんな気持ちで仕事にとりこんでいったらいいのでしょうか。こんな時こそひるんではならないのです。くよくよせずに、断乎として、次のことを実践することです。それは、「人を喜ばせる」ということです。

なあんだ、そんなことか。もう、よく分かっていることだ……などと、軽くみないでください。問題は、その分かったことを実行しているかどうか、にあるのです。

私は、あえて、次の問いを発したのであります。あなたは、現在何を、人を喜ばせていらつしやいますか。今日は、どういうことを、おやりになりましたか。それを、ここではつきり示していただきたいと、何だか詰問しているようですが、別にそんなつもりはありません。じつは、「人」を喜ばせることの実行が、こうした苦境からの脱出の鍵になることを体験して頂きたいからにほかなりません。「人」とは、お客さん、

従業員、またその他の人々のことです。苦しいときこそ、そうした人々を喜ばせる勉強ができるのです。らくなときは、油断したり、ぼんやりしたり、いい気になったりして、いちばん身をいれにくいものです。とにかく、つらいときがよいのです。喜ばせるといっても、妙にへり下って、ごきげんをとることではありません。

従業員たちの気持ちを、どれだけ理解したであろうか。今日は昨日より、どれだけ働きやすい職場にしているか。従業員の仕事内容、従業員を喜ばせるといっても、その内容は、じつに無限といってもよいほどあるのです。

お客を喜ばせる問題にしても、じつにたくさんあります。どのような製品を、どのようにつくり、どのように販売しているか。お客にたいする接しかたは、どうか。まごころは、どの程度あるだろうか。

ある人は、お客さんの誕生日を

一々かきとつておいて、その日にはお祝いの手紙をさしあげるようにしているといいます。それに劣らないくらいの誠意をもっているかどうか。あろうか。

政治がわるいのであれば、しかるべき方法にうったえて、中小企業にたいするやりかたを改めさせるように、努力すべきは当然であります。しかし、それはそれとして、現在の苦境そのものについては、従業員やお客を喜ばせることに、自分がかきりした目標をもち、その努力をいさんでやっているかどうか、ということになるのです。

そうやっていますと、現在の一般的な苦境におかれながらも、その中で、少しずつ、あなたの店を、よくしてゆくことができるのであります。営業方針の再検討、経理経営合理化の再調査、そのほか、なすべきことは、たくさんあります。しかし、この困難なときこそ、将来の前進の、大いなる基礎がためには、絶好のチャンスなので、よろこび勇んで、働きぬこうではありませんか。

（月刊『新世』一九六二年二月号より）